

□ 随 想 □

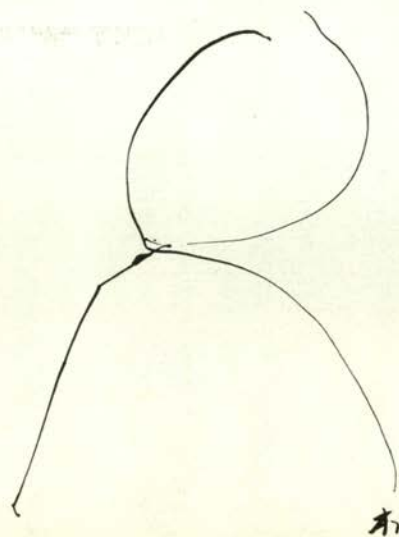
海と日本

玉井 操
え・津高和一

現在の日本は、狭い国土をフルに活用して、諸企業の活躍から現在の繁栄をもたらしている。土地が足りなくて山や丘を切りくずして海を埋立て工場や住宅建設をしている。神戸のポート・アイランドの造成は、その最もよい例であり、今後この種の建設はいっそう盛んになるだろう。

二一世紀は目前に迫ってきた。その新世紀が呼称されるときに活躍する人々のために、われわれはその下地を作っておく必要があると思う。二〇世紀の人はさすがだといわれるように。

戦前、満州や中国大陸での活躍を夢見ていたがそれが悪夢として消え去った今日、日本人はその活路を海上に求める以外にはないだろう。それは船と土地作りの形において表現されているように思える。



大人の世界では海といえば船を連想する。船とはあらゆる物を運ぶ道具といわれているが、これは見方をかえると「海上に浮かぶ工場」ともいえる。日本の沿岸のみならず、世界中、自由に飛びまわる大小の工場といえる。海運業はこの大小の海上工場を活用しているサービス業なのだ。しかも、この工場はきわめて合理化されたもので、わずかな人数で大きな実績をあげている。日本ではより必要な外貨獲得という重大な役目をつとめている。二〇万重量トンの巨大タンカーは野球場を二つも含む大きさだが、わずか四十七、八名でこれを動かし二〇万トンの重油を運んでいるわけだ。現在、日本の船舶の数は大小合わせると約一六〇〇万総ト、二五〇〇万重量ト、隻数に直すと約二五〇〇隻以上と推定される。この大小の動く工

場は日本沿岸はもちろんのこと、世界中を夜となく昼となく働きまわっているのである。これらの船は年間八、九億万ドルの外貨を稼いでいる。日本の外貨保有は二〇億万ドル前後で毎日のように一喜一憂が報ぜられている。一六〇〇万トンのこの船が一隻もないとしたら、日本の保有外貨は、二三年にして皆無になる計算になる。

船がとまれば大製鉄所も、大製油所、造船所、ゴム工場も織物工場も自動車工場もパン工場、また新聞紙の輸送も全部停止する。船は日本の諸産業のパイプの役割であり、また、魚類などをわれわれの口に入れてくれるパイプでもあり、これを捕獲する工場でもある。海上工場を大量に作りここで働くことは、日本国民の将来の繁栄につながると思う。単に日本を中心とした輸出入貨物の輸送のみを考えず、第三国間を縦横に活動することも海の国、日本の特色を一段と表現する手段になるだろう。

現在、われわれは、むこう七十年間に二二〇〇万トンの大量建造を計画している。日本の安定した繁栄と、より豊かな生活を営むためには、この工場を思いきり建造することが絶対条件となりつつあるからである。海運助成とよくいわれるがそれは単に船会社助成の意味ではなく、日本経済の助成であり、国民生活をより豊かにする政策であることに注目しなければならない。

欧州諸国の中で国土の狭い国々の繁栄は、船の力によるものであり、海を制するものは世界に君臨することにもなる。

日本の敗戦は原爆によるともいわれているが実

際は、二年前に海上をアメリカに全部押さえられたのが原因であろう。軍事上のことは今日必要のないことだが、日本の純経済生活も全く同じであることを海の国に住む日本人は反省し自覚しなければならぬ。

子供は海といえば海水浴を連想する。子供の健康上海水浴は非常に身体にいいことは万人が認めている。従来の海岸は海水浴場に不向きとなり自然の海水浴場はもはや身動きできない状態になっている。だから人工大海水浴場を全国いたるところに国費で大々的に建設することを唱えたい。西独は七年間に一七〇〇億ドルを投じて子供のために各種スポーツ用の広場を建設したと報ぜられている。将来の西独の繁栄の基礎となる人間造りのためである。狭い土地で地価の高い日本では海を利用することが必要だと思う。海上運動場を建設し、そこに大養魚場も兼ね備えることが日本の食糧事情からいって必要ではないだろうか。子供はかくして海を知り、海に親しみ、理解する。一石三鳥、四鳥の効果があるとはこのことだと思うが我田引水だろうか。

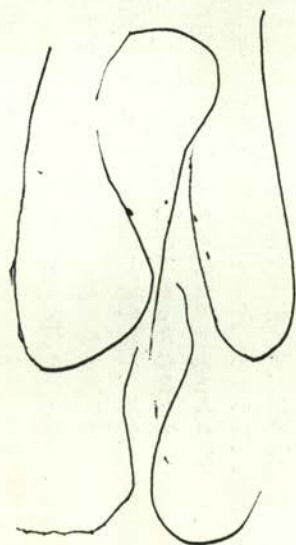
七月二十一日は海の記念日であるがこれを国の祝日とすべきことを数年前よりわれわれは唱えている。直接海に働く人々、またこれに関係して働く人々は数千万人だと思うし、その恩恵に浴するものは全日本国民である。現在の数多くの祝日の中の一つを海に対する祝日としても、日本の場合その将来を考える時、少しもおかしなことではないと思う。

△玉井商船KK社長▽

□ 随 想 □

夏の海

赤尾 兜子
え・津高和一



あ

先日、東京在住、工学博士で俳人の山口青邨さんから句集「乾燥花」を贈られて読んでいたら

淡路島鳥の眼で見るうららかに

という句がハッと目を射た。これは昭和二十九年の春、日航の招待で榛名号に乗って九州へ遊んだその帰りの機上詠であるらしいが、機上にいる自分の目をとっさに鳥の眼になぞらえてみたその意表をついた着眼に、私はひどく清新さを感じたのである。人間の着想や着眼というものも、このごろのようにむやみと競争のための着眼、先を争うただそれだけの思いつきになってしまうと、どうも小さかしくガツガツしているようで、うららかさが無い。「鳥の眼」というマンガがこのごろ流

行のようだが、青邨さんのこの句は十余年も前の作だから、着想の特許ということになるとこの方に凱歌（がいか）をあげるべきだろう。

ところで水平線のかなたに入道雲が鮮やかに身を起す夏の海が、ひろがる季節になると、その男性的な身を灼く烈日とはすこし離れた翳の部分に、私は

乳母車夏の怒濤によこむきに

という橋本多佳子さんの句を反芻する。私がまだ大学の学生だったころ、この美しく才にきらめく人を奈良で初見したのだったが、いまやその人は亡く、句のみが夏の怒濤のように、女の情念を秘めて私の身辺に、しのび寄せてくるのである。

いつごろの句か、まだよく調べずにいるが、たぶんこれは、橋本さんが若いころにいた北九州の海辺か、あるいは後にしばしば足をはこんだ伊勢の浜辺かでえたものだろう。

私は播州・網干の海辺で生れた。網干(あほし)という名が物語るように、むかしは網を干した漁村であった。夏休みになるとほとんど毎日海に入り、その波とたわむれたものだが、

「今日はいしゆだから子供たちはみんな海へゆくんだ」

という父の引率で、女もまじる八人の兄弟が炎天下の小道を珠数(じゆず)のようにつらなつて連れてゆかれたのを妙に覚えてゐる。海へいってみると、ふだんの日よりも浴客が多いのが目につくのだが、それより近在から牛をつれた百姓さんが来ていて、牛を紺碧の海中へ入れて、その背に海水をさぶさぶ掛けてやっている姿が珍らしく、ひどく印象的だった。父がいしゆの日だからとわざというのは牛も海へ入る日なので、そういうのだろうと決めてしまっていたが、何でもこの日に海に入ると身軀が丈夫になり、病気をしないと母が念を押すので、信じていたのである。最近、大歳時記を何となく開きつつ見ていると、丑湯(うしゆ)の項があり、そこには

「八月下旬の土用の丑の日に入湯すると身軀によくきくという俗信に基づいて、全国各地の温泉場にみられる風俗である」と記してある。

これによって私は、はじめて丑湯のほんとうの意味を知ることができた。丑湯は海でなく、温泉に入ることをいうのだと。まあいづれにしても俗

信であることには変りがない。それにしても私の生れた漁村周辺のどういう先覚が言いだしたのかわからないが、温泉なら金もかかるものを、天恵の海へ無料で入ることによって、身軀が丈夫に、牛も強くなるとはうまい風習をつくり、よくよく教えこんだものだと、そぞろ先覚の知恵にいまは微笑を投げかけたくなってくるのである。

といって、もう私の生れ故郷にありし日の海辺の姿はまったくない。むしろいまは第二の故郷・神戸の清爽なる海に思いを托するほかないのだが、その海も次第によこれ、白砂青松が名のみとなつてゆく近代化の流れに風流好きをいってばかりいては何の抗しようもない。

私の好きな中唐の詩人で二十七才で若死した季賀に

願君光明如太陽
放妾騎魚撒波去

あなたにお願い。あなたの輝くばかりの聰明さが太陽のようであることを。私を解放し、魚に乗ってしぶきをあげて行かせてほしい。

という詩がある。私も魚に乗ってしぶきをあげてゆかせてほしいのだが、季賀の夢幻を現実となすことは、とてもできぬことである。深夜の須磨の海辺でからだを夜光虫まみれにして、その清幽の光に心をなぶるか、あるいは、猥雑になつてゆく神戸の海浜を直視せず、高く空に飛翔したつもりの位置で、私の眼を鳥の目におきかえ、広く播磨灘を、瀬戸内海をはるかにみつめるか、どうも私の夏はこれから、こんな海とたわむれるほかはないだろう。

(俳人)

れんさいずいそう I

Rocking Chair

十河 巖

〈随筆家〉

金魚と少年

午後三時ごろの阪急神戸線は混んでいるといっても、まだまだ楽な方だった。中の方へ詰めようと、吊皮を握る人の列を押しわけて、入口の前から中央部へ進もうとした。

「おじさん、死ぬが！」

と小柄の中学生が、まるくふくらんだデパートの包みを高くささげているのに、ショルダー・バッグがぶつかったものらしい。

それにしても「死ぬ！」とは大仰なものいい方だと少年の顔を見なおした。彼はその包みを防御するのに夢中で、深くかぶった白線をまいた学帽の下から汗が流れ出ている。

少年は学校からの団体見学で阪神地方へ出てきた郡部の中学生らしく、車中にはほかに同じ年頃の中学生が乗っていた。

「死ぬって、いったい誰が死ぬんだい。包みの中にはなにか生きものでもはいつているの」

あまり必死な顔つきの少年をいたわるつもりで、たずねてみた。

「金魚や」

少年は高くさしあげた紙包みを眼の下までおろして、包み紙の合せ目をすこしひらいて、中をのぞいていた。

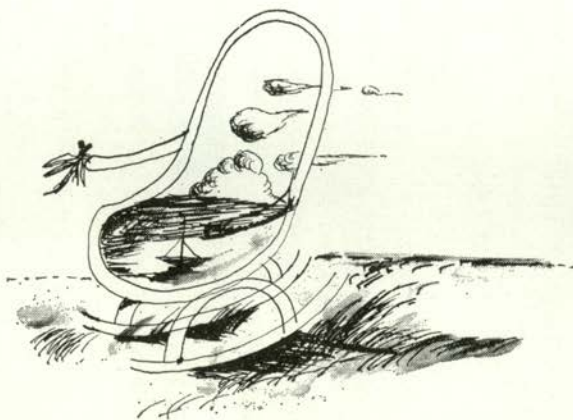
「旅行の帰りなんだね」

少年は田舎の子にしては素直にしゃべった。

「ふん、いまから神戸港の汽船を見て播州のうちへ帰るんや」

「金魚みたいな弱いものを、なぜ買ってもち歩くんだい」

「それかて、こないきれいな魚を見たん生れては



じめてやもん。今夜の九時に家には帰るねんけど、それまで生きとるやろか」

少年は独りごとのようにいった。彼がひらいた包み紙の隙間から中をのぞいてみた。二年魚（にねんこ）ぐらいの赤い琉金がまるくふくらんだポリエチレンの袋の池をゆうゆうと泳いでいる。

「君の方では金魚はいないのかい」

「鯉や鮒はいるけど、こんなに長い尾をもった、きれいなやつは、はじめてや」

神戸からわずか三時間余で行きつける兵庫県では琉金が見られないとは驚いた話だった。

一尾百円ぐらひはするだろうが、袋の中には二尾の琉金が長い尾をたれて泳いでいた。

「早う帰って、タライに放してやりたい。ぐずぐずしとると死んでしまうが」

この少年には神戸港の見学よりも、この金魚の生き死にの方が、はるかに重大問題なのにちがいない。おそらく小遣い銭の半分以上をふんばつて買った琉金を親弟妹の前でタライに放して悦にいつている少年の姿がまざまざと見えるようだった。二尾の金魚のために、これほどまで気をもんでいる少年がいじらしくさえ思われだした。

数年前に市内の外人学校の寄宿舎にいるアメリカ少年が運転するオートバイの後から、ひっかけられて重傷を負って、長いこと入院していたことがあった。ある日、白い大きい花の咲いた泰山木の枝を一本もって、アメリカ少年は病院へ見舞いにやってきた。その枝の切り口は鋏や刀で切ったものではなく、むりやりにへし折ったものだった。六甲山にでも登って、とってきたものでもなさ

そうだし、むろん花屋で求めてきたものでないことは新聞紙に包んでいることからでも明らかだった。学校の校庭か、友人の家からでも折ってきたものと思われたが、そのアメリカ少年のために「どこで買ってきたのか」とまでは聞かなかった。同じ少年でもアメリカの少年にくらべて、播州の少年の心情は日本人らしく、素朴で美しい。

近ごろのデパートの金魚売り場では、さげて帰る途中の時間に応じて、ボンベの中から、ポリエチレンの袋の中へ必要量の酸素を入れてくれるので、二年魚が二尾ぐらひなら、たぶん生きて帰るかもしれないと、この子のために祈るような気持ちになった。大きくふくらんだ袋をつまんでみて、

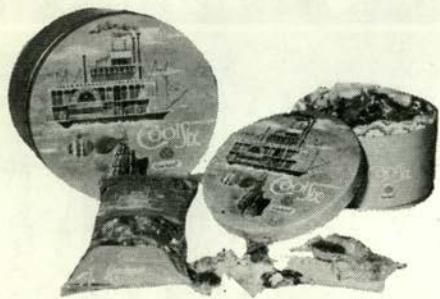
「これなら君の家まで大丈夫だよ」

と、慰めてやると、軽くうなずいて日やけした顔で笑ってみせた。

ちかごろの小学校では交通安全のためのレッスンや実習をやっているようだが、なにか生きもの飼わせて、生命の尊さ、生きるために全力で闘っている生きものの姿の美しさ、これを体得させることは、人権尊重・人命尊重を何べんも、くりかえして教えるよりも、はるかに効果があるにちがいない。播州の少年の金魚は毎日ベトナムで、くりかえされている殺戮（さつりく）をしんから憎む心を彼の胸に植えつけたにちがいない。悪どい交通事故があるたびに人命尊重が叫ばれたが、何度叫んでも同じこと、まず小さくてもいい実行することだ。播州の少年も最初は美しい琉金の姿に魅せられて買ったものだろうが、次の瞬間には生命を愛する美しい行為に変わっていたのである。

CoolSix

SUMMER CANDY



クールな感じのクールなキャンディ……
クールシックス・サマーキャンディ



チョコレート＊キャンデー

ゴンチャロフ

本社 神戸市生田区加納町4の1 TEL 39-2636
直売店 さんちか・スイーツタウン TEL 39-3563



＊ランジェリー
＊ブラウス
＊セーター
＊ワンピース
＊スーツ

Giya スギヤ

トア・ロード市電大丸電停前
TEL (33) 3436
六甲店・阪急六甲駅
TEL (87) 2731(呼)

6月4日
6時のマックのお客さま



若人の服飾《マック》

MAC

★三宮本店／神戸センター街 ☎0895★トアロード店／セ
ンター街西口 ☎0896★新開地店／新開地本通り ☎7688
★姫路店★京都店

上月 晃さんも

〈宝塚歌劇団〉

芸夢を

ごひいきです



舶来アクセサリー、服飾小物など
芸夢の品があなたの夢をかなえます
ぜひ一度お立寄り下さい



コスチュームアクセサリーの店

EIMU 芸 げいむ 夢

神戸店／トアロード (33) 2293・8643
大阪店／心斎橋ロビー (211) 5153・1044
ブテイモンド・エツチャン (211) 8503
さんちか店／レディスタウン (39) 2855
京都店／藤井大丸 1F (231) 8181
東京店／東急日本橋 1F (211) 0511



▲四方田耕三氏

★神戸つ子対談★

神戸港の未来をかける阪神ポート・オーソリティ

四方田 耕三 △阪神外貿埠頭公団副理事長▽

★姓名談義

砂野 四方田さんのお名前は、非常に姓と名が関連が
ありになるのですが、どちらのご出身ですか。

四方田 親爺の方が松江市の貧乏藩士でしてね。四方の

砂野 耕一 △川崎重工業KK外船課長▽

田を三たび耕す、ということでしょうが、私が耕三で、
あなたが耕一とは、奇縁ですね(笑)

砂野 私の方は片桐且元の後裔になるのですが、関ヶ原
の戦いで敗れて宮津の奥の大江山の麓にひっこみ、庄屋
とか酒造りを曾祖父の時代までやってきておりました。

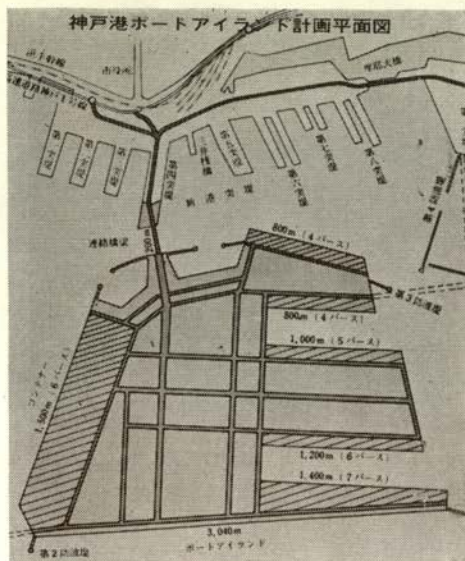
いずれにしても荒れた土地を一生懸命耕して、大自然の恵みを育てあげる、ということになるのでしょうか(笑)

★神戸港の特性に合った発展を

砂野 ところで、神戸に住んで、神戸で仕事をしている人たちで、案外神戸港については知らない人がいるのです。神戸港は、横浜に比べて地盤沈下だといわれたりしますが、取り扱い製品の内容が根本的に違うのですね。横浜は穀物・石油・石炭などの輸入が、経済成長にともなつて大巾に伸びてきているためで、神戸の場合は、昔から繊維原料製品・機械機器・金属製品・雑貨の輸出が中心なのですね。

四方田 港に関心が少ない原因としては、開港以来、国有国営だったものだから、港のことは国に任せておけばよいという考えが市民にあるのかもしれない。神戸市が港の責任を持たされたのは昭和二六年からです。その後約二十年近く経っているのですから、神戸市民にもっと港の特性を知ってもらいたい、と思っています。

砂野 神戸で従来から扱っている貨物の特性を考えますと、四方田さんのご専門になるのですが、コンテナ輸送は最適だと思うのです。神戸にコンテナヤードを建設



することによって、神戸が新しい時代に重要な地位をしめ、西日本経済の重要な基地になりうる、という大きな期待がもてますね。

★現代は輸送革命、流通革命の時代である

四方田 その通りですね。海上輸送コンテナは従来の輸送方式を転換しました。アメリカでは四十トン近いコンテナを船に積んで運ぶ方法が約十年くらい前からとられていました。また一昨年には、大西洋をコンテナ輸送で定期運航するようになりました。それが最近では、太平洋横断ですから世界的にコンテナ時代ですね。まさに第二の黒船出現、といった海上輸送革命なのです。

砂野 そういった輸送革命がやってきた背景はどういうものでしょうね。

四方田 技術革新の結果だと思います。大量生産、大量消費の時代になって、現在定期船で輸送されている貨物の七〇〜八〇％はコンテナ化しようという時期に、日本のどこにもコンテナが着けられる岸壁がないのです。それではいけないと、日本の海運界は大騒ぎとなった。これが動機となって日本にも海上コンテナ輸送の基地を作るといことが第一の使命となって、公団が生まれたのです。阪神外貿埠頭公団は、昨年の十月二十日にできました。京浜公団も双子のようなかたちで生まれたのです。

さしあたり、阪神では大阪南港に五バースと、神戸のポートアイランドに六バースのコンテナバースをつくる。ご承知のとおり、造船は今や世界一です。海運もそれに劣らないように邁進せねばなりません。

砂野 政府予算の面から見ますと、道路予算に比べて港湾整備予算は四三年から五年間で一兆三百億と実に少ないですね。日本は海洋国といわれながら、港湾設備の整備という点では、力の入れ方が不足していると思うのです。これからは公団を通じて港湾設備の整備を積極的に進めようというわけですね。

四方田 そうです。今までの港のつくり方と、このたびの公団の港のつくり方とは違うのです。在来港は、国営国営で、神戸市、横浜市などが委託管理をしていますし、船の都合を無視して先着順に船を着けていた。船としては、非常に使い勝手の悪い港だったと言えます。ところが公団のふ頭ということになりますと、船会社に専属にふ頭を貸すことによって、より効率的に活用されるわけです。港の所有権は国が持っていて、管理運営はそれぞれ地方公共団体に任せる、という港の公共管理から、商業採算制に基づく運営への転換です。コンテナバースを作ること、港の効率的な使用をはかる、という二つの狙いが公団を作らせた大きな動機となっています。資金的な面でも、従来は財政資金の枠に縛られて、なかなか建設計画が促進されなかったが、公団ができることによって外部からの借入れもできるし、客観状況に合わせた効果的な建設が進められます。このことを考慮に入れると、先程いったコンテナの問題、効率化の問題、地方財政と港湾管理者への財政援助の問題、この三つが公団成立の目的となっています。現在、伊勢湾にも公団を作ろうという運動がありますが、政府としては、京浜、阪神の公団を試金石としています。従って、われわれのテストパイロットとしての責任は非常に重大です。

砂野 日本のコンテナ輸送は神戸から、ということですが、単に港を整備するというのとだけでなく、他の地域との関連についてこれから見通しはどうでしょうか。

四方田 神戸港は日本の輸出貨物の三分の一くらいを取り扱っていますが、コンテナの主体はやはり雑貨ですからね。また最近の実績をみますと、輸出入ともに八〇%〜九〇%に近いくらいコンテナに依存する傾向が強くなってきました。雨の中でも荷役ができれば、盗難の心配がない。荷造費が安くてす

む。人件費が安いために費用も二〇%〜三〇%ダウンできる。また、船がいついたらその日のうちに荷役をすませて出航できるので船の回転もいい。そういったメリットがだんだん解ってきたのです。そういう本当の意味での輸送革命に対して、在来港の設備をコンテナヤードに改造しなければならない時期もくるのではないのでしょうか。

砂野 ポートアイランドが完成するまでに、コンテナヤードが先にできるのですか。

★公園のある港湾都市ポートアイランド

四方田 そうですね。ところが将来の輸送量次第で、一般ライナー用に予定をしている二六バースもコンテナバースにきりかえることのできるような設計も考えているのです。さらに今度のポートアイランドは単なるふ頭ではないのです。市街地改造といえますが、働く人達のアパートも公園も作ろうというのです。ポートアイランド自体の計画は、第二、第三防波堤のうち約四二〇万㎡を

▲砂野耕一氏



埋立て、コンテナ六バースで、一般ライナー二六バース計三二バースを整備し、外貨貨物六九〇万トを取り扱うほか、広い用地造成も行い、いわば集約された港湾都市といった大ふ頭を建設することにあるのです。われわれは港湾関係が担当で、面積は約三〇〇万㎡をコンテナヤード、一般ライナー用バース、港湾機能用地に当て、市の方で残りの二二〇万㎡を都市開発用地として、ビジネス街、商業用地、港湾海運従業者の居住地、学校、公園には市街地再開発のための用地を確保しております。一方では港をつくり、一方では街をつくる。市長の意図としては、できれば万国博にまにあわせたいのですが、少なくとも万国博に対する一つのモニュメントとしたいですね。

砂野 ポートアイランドの土地利用のことですが、工場を誘致する問題など、どの程度の具体的な計画があるのでしょうか。

四方田 土地利用のことは、神戸市の諮問機関の神戸港ポートアイランド利用計画委員会（会長・石野信一神戸銀行頭取）でやっております。工場誘致の件は、通産省の規制がありますので、とにかく公害の発生するような工場はまかりならぬ。五月十八日に発表されたマスタープランでは、輸送機械、荷役設備の修理、補給のための施設、貨物の仕分け、梱包、マーキングなどの作業場をふ頭付近に配置、食品加工、機械組み立て、などの工場を収容する、とかの案がでています。それ以上の細かな内容はこれからといったところです。

★阪神ポート・オーソリティをつくって

神戸港の飛躍的發展を

砂野 現在日本の政治・経済はすべて東京に集中して、そのために多くのひずみが生じて来ている。しかし、関西新国際空港、明石鳴門架橋、それにポートアイランドの建設を契機として、阪神地区が日本の第二の中心としての役割を果たす時代がやってくると思いますが、西日本

経済圏、近畿経済圏のカナメとしての神戸港の将来はどういうものでしょうか。

四方田 そうですね。それはポートアイランド以後の神戸の未来図になりますが、たとえばコンテナ輸送にしても、東南アジアへのローカル輸送が神戸を基地としてできるのです。当然神戸を基地として瀬戸内海から中部東海方面までコンテナ輸送ができます。港の規模も次第に大型化して行く。大阪・神戸といわずに一つの阪神ポート・オーソリティというものにしたらどうかという考えがでてきています。地元の経済同友会でもそういう運動がおこっているのです。この阪神外貿埠頭公団ができたので、この公団を阪神ポート・オーソリティにまで持っていこう、と体制を整えているわけです。ポートアイランドの次には、摩耶ふ頭のむこうに六甲ふ頭を考えているのです。それから芦屋から西宮にかけて阪神運河を計画し、大阪と神戸港を一つにし、防波堤の上に第三阪神国道を作る、という夢があります。

★十周年をむかえ、空航問題にとりくむ神戸青年会議所

砂野 そういった新しい国づくりを実現するために、私たち青年が立ちあがらなければならないと思います。神戸青年会議所は、七月十三日で創立十周年を迎えますが、関西国際空港建設問題を取りあげてレポートを作成し、SSTやジャンボジェット、また、今お話のあったコンテナに象徴される来たるべき時代と、それを迎える私たちの心がまえを啓蒙してゆきたいと考えております。

四方田 このように非常に早いテンポで、しかも複雑な動きをする経済環境の中で、人間が自主性を失なわずに本当に人間らしい仕事をして行くのは、むずかしいことです。その点、神戸青年会議所のメンバーが大いに発奮されているのは頼もしい限りです。いっそうのご努力を祈ります。

経済ポケット

ジャーナル



★神戸市電の代替機関に 地下鉄方式を

「高架市電」、「モノレール」、「地下鉄」などいろんな案がとりざたされた神戸市の市電は「地下鉄方式がよい」という結論が出た。

神戸市交通事業審議会（会長有岡神戸市助役）は、四十六年度末に全廃する市電の代替交通機関を審議した結果①原則として地下鉄方式とし、一部は高架②機種は普通鉄道方式（鉄輪）③路線は将来の周辺部の開発も考え四路線三十八キロを設置

が望ましいことを原口市長に答申した。市は答申をもとに来年夏ごろまでに実施計画を策定、一部は同年末ごろ着工する方針。

地下鉄を打ち出したのは六十年には神戸市の人口が約百六十五万人となり、自動車交通量も急増して路面電車、バスは大量輸送機関としての機能を果たせないこと、また全面高架方式では騒音公害があり、都市美観を損なうことなどの理由による。地下鉄は一キロ当りの工費が三十五億円もかかるので、人家の少ない郊外では地上路線とするようにしている。

路線は国、私鉄路線と将来の宅地開発を考慮して①三宮から南下、臨海部沿いに西の副都心



地区（国鉄新長田周辺）に至る海岸線九キロ②三宮から山手通りを經由、西の副都心に至る山手線七キロ③西の副都心部から垂水区平野町周辺に開発計画が進んでいる西神ニュータウンに至る西神線十六キロ④三宮から布引付近で山陽新幹線と接続、さらに東部の住宅地帯に延長する東部線六キロの四つが適当だとされている。

★商調法違反の

小売り市場相次ぐ

小売商業調整特別措置法（商調法）に違反した市場が、最近相次ぎ兵庫県から告発されている。告発を始めた四十一年から四十二年中に五件、これにはいつて「スーパー・ナショナル」（神戸市垂水区東垂水町南北谷

一三五八）、「ダイコー・ストア」（西宮市古川町一）、「阪急ショッピング・センター」（川西市中央一〇の六）がそれぞれ県の再三にわたる警告を無視して強行開店、告発された。これらはいずれも当初計画のスーパー形を小売り市場形に変えたもの。三十四年七月成立した議員立法の商調法では既存市場から七百五十坪離れて立地することを規定しており、違反した場合は五十万円以下の罰金刑だが、最近の違法市場は「罰金覚悟」でベッドタウンへ進出、公然と商調法に挑戦している。

商調法は実情に合わないザル法だというのが大方の見方だが、消費者には違法市場でもなんでも「安くてよい商品」さえ求められれば文句はなく、あくまで法秩序を守るという県道場も今後多発しそうなこの種の市場の処理に頭を悩ませている。

★ボランティア・チェーン

J・TOPが協業組合結成

西日本の家電小売り店をつつたボランティア・チェーン「J・TOP」（本部神戸市市役所表者岩井弘光氏）が、協業組合

を結成した。商業関係とくにボランティア・チェーンの協業組合は全国でも初めて。七月早々大阪通産局が認可する見込み。「J・TOP」は昨年八月、兵庫県電気商組合理事長の岩井氏が兵庫、広島、香川など西日本の家電小売り店約二百店を任意組織として発足したもの。この夏の夏から川崎電機製造の扇風機を（J・TOP）のブランドで共同販売、さらにタイラーやカラテレビなども独自のルートに寄せ、メーカー系列から脱皮を図ろうとしている。昨年夏以来、株式会社、協同組合、協業組合のいずれの法人格を選ぶかを検討してきたが組織の結束が図れ、高度化資金など制度融資面でも恩恵の多い協業組合結成に踏み切った。しかし、組合の主な事業が「商品の共同仕入れ」なので、中小製造業の合理化をねらった協業組合の目的からみて毛色が変わっており、通産当局との折衝に時間がかかった。岩井氏は「協同組合では利用主義の傾向が強く、また株式会社では業界内の協調性を欠くため協業組合にした」と語っており、少なくともレギュラー・チェーンと同様な効果を期待しているようだ。

* KOBE オフィスレディ *



水杉妙子さん (25)

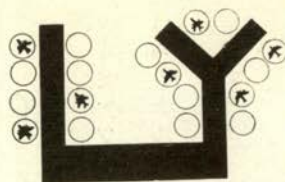
松下電器産業（株）神戸機器営業所勤務

この7年間の電機製品の愛着は激しい。その動きを経理の面から見てきたのが水杉さんである。何でもいやだと言えない性質なので、すね、とは上司の弁。明かるとい女性。結婚しようと思っても、いろいろとしたい事がたくさんあって迷ってしまうのです。と本当に困った表情。星陵高校卒、五位の池在住。

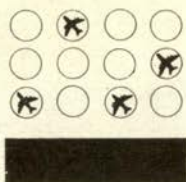
空港の形式

諸岡博熊

△神戸市企画局調査部副主幹▽



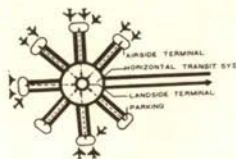
3 フィンガー方式



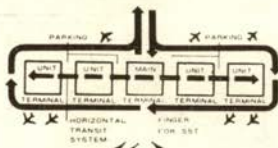
2. オープン・エプロン方式



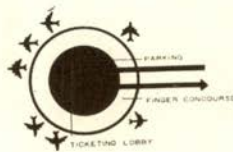
1. フロントナル・パーク方式



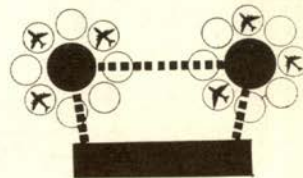
7. エアサイド方式



6. 並列方式



5. エアロキー方式



4. 衛星方式

旅客と密接な関係にある航空機の駐機方式とターミナル・ビルとの関係および昇降方式について類別し、解説する。

① フロントナル・パーク方式

もっとも単純な方式で航空機は一列にターミナルの前面のエプロンに駐機され旅客は最短距離で昇降する経済的な方式である。オール空港中央部がその例。

② オープン・エプロン方式

発着回数増加にともない誘導路までの空間にエプロンを増設したもの。旅客のターミナルと航空機の間とのバス運搬を考慮する必要がある。この方式を高度化すると、ワシントン・ダレス空港のモビル・ラウンジ方式に発展する。

③ フィンガー方式

回廊がエプロン区域に延長された型式で、単純なものは平家建て開放型である。その幅員によつては、ゲイト・ラウンジも設けられ、また航空機との完全室内直結の昇降方式とも併用できるものである。コペンハーゲン、シカゴなどがこの例。

④ 衛星方式

オープン・エプロン方式の中央に散在させてゲイトビルを設け、航空機をその周辺に駐機する方式でありターミナルとは通常地下道で連絡させる。廊下を二階のレベルに設けた場合は、航空機の誘導に制限を受け

ることになる。ロサンゼルス空港が好例である。

⑤ エアロキー方式

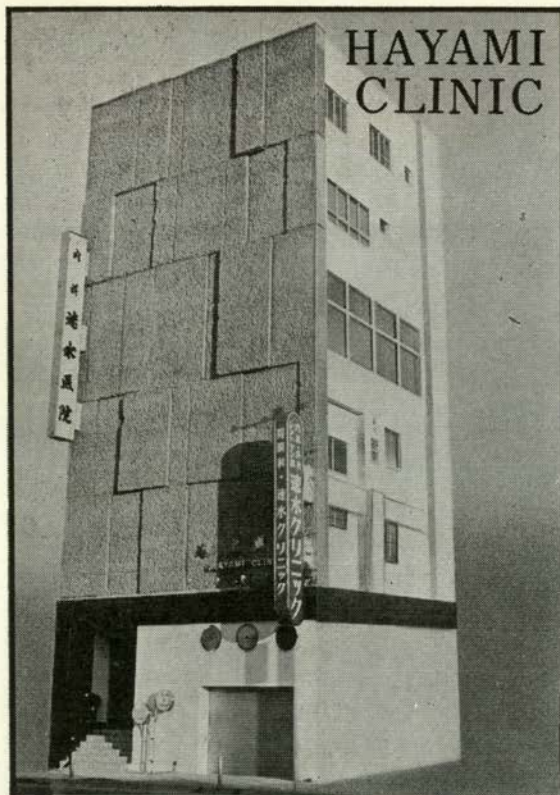
現状のコンコースの中心ターミナル・ビルとその上階八層を駐車場として都心より車を地下道によつて全部この中心に集中させ、旅客は放射状につながる廊下の還状コンコース周辺のゲイトから最短距離で航空機に達する。トロント空港に初めて完成したものの。

⑥ 並列方式

世界で始めて計画されたSSTに対するヒューストン新空港の例である。中央にメイン・ターミナル、管理部門、SSTエプロンをもち、両側にユニット・ターミナルを二単位ずつ並列させ、その周囲を自動車道路、パーキングとターミナル連絡用の自動運転の電車を配置する。

⑦ エアサイド方式

トロントのエアロキーの高度化されたもの。中央円型のターミナル・ビルと連絡し、これはフロントル方式のゲイトを持つ。また、中央トランジット・ターミナルより各エアサイド・ターミナルには自動車道路とパーキングが設けられ、直接ゲイトに到着できる。フロリダ州タンパ新空港の計画である。



HAYAMI
CLINIC

内科ドック
内科精密諸検査・通院・入院

速水クリニック

各室エアコンディショニング
バス・トイレット・テレビ・電話付

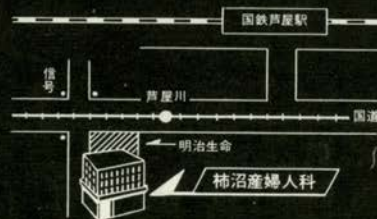
★
市電太田町交差点東300メートル浜側（西代陸橋西）
予約・連絡 TEL（神戸）62-4031-2

こんにちは赤ちゃんく！



完全看護★冷房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大槻町9番地
国道芦屋川電停東50米（明治生命南）
☎ 芦屋（0797）2-2139・2-4087

*世界で最も名誉
ある時計ロンドン



特約店



美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798

三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL33-8798

KOBEセンスを生かした
信用と伝統の店



▷ゴルフコーナーには、No.1のダンロップ用品を中心にあらゆるゴルフ用品がそろっています。

▷タカハシのオリジナル・バッグコーナーは定評があります。



バッグとゴルフ用品の店

タカハシ

神戸・元町3丁目 TEL 33-1172・7782

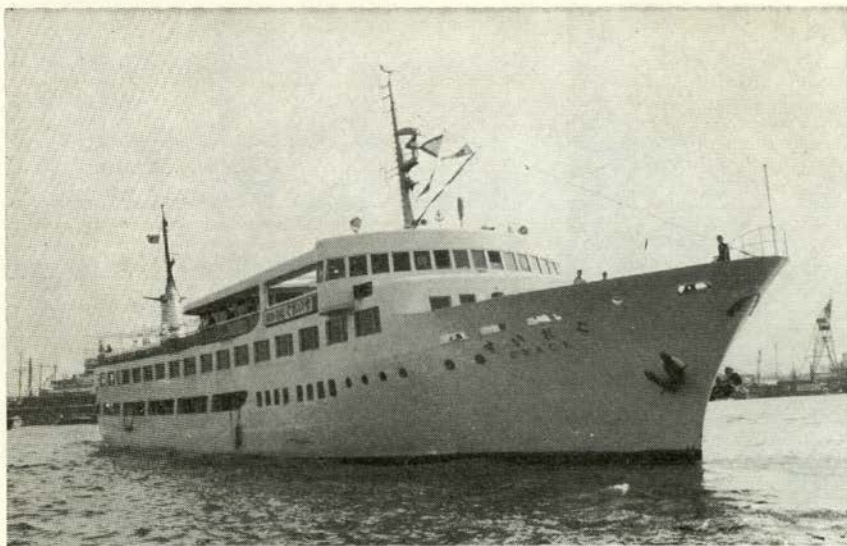
☆ダイナミック神戸

春木 一夫
え・たかはし・もう

加藤汽船の巻

ぐれいす丸で小豆島・高松に行く

アイディア船で瀬戸内の旅



神戸港を出港する加藤汽船の「ぐれいす丸」。

土曜日の夜十一時。加藤汽船の「ぐれいす丸」に乗って、神戸の雑踏を中突堤の岸壁に切りすてた。

海は暗い。舷側だけが、白い波を蹴立てている。本土の沿岸に色とりどりの、星屑をきらめかせたような灯の塊りが、わずかに目を慰めるだけであった。仕方なく船内をめぐり歩く。

スカイルームはクールなムードをたたえた社交室である。二重の円形テーブルになっており、まん中に赤・黄・桃色のコスモスが咲いていた。客は浴衣がけでゆったりと窓越しに、酒や茶を呑みながら、海や本土を眺めている。夜だから風光は見えぬが、昼間だと回転椅子で、内海の景色が存分に楽しめるであらう。

隣りは浴室である。銭湯ほどの広さがある。中央に土俵のような浴槽があり、濡れた床は石で張られていた。風呂につかりながら、まわりの風光を眺めると、瀬戸内海を征服した王者のような気持ちになれるかも知れない。

喫茶室は階下にある。階段はプラスチック製で、光りが背後からにじみ出ているので、夢の国へおりていく気がする。部屋には絨絨が敷かれてあった。光線の関係か煉瓦色に見える。壁にはクリスタルガラスが張られてあった。光りを反射して黄金色の竹を並べたように眺められる。ゴールデン・ルームと加藤常太郎会長が名づけたのも、さこそと思われる。ショッピングコーナーでは、煙

草や軽い菓子類、酒などを売っていた。

船長に面会を求めたが、気象条件が悪く席を離れられぬという。代って中山事務長に船の特性をたずねた。乗船歴十五年というが、三十五、六才ほどにしか見えない、ゆったりとした海の男である。海難事故は一度もないと誇っていた。「ぐれいす丸」は一、一〇〇トン、スピードは十六ノット。神戸・土庄（とのしょう）間は一、二六〇円。他社の特二の運賃で、一等個室に乘れるということである。

特徴としては、事故で客室に浸水した場合、リモコンでその部屋を密閉し、他の部屋に浸水を及ぼさない。デッキ後方に、電気操作で動く扇形のウイングテーブルが波の上に突き出しているの、白い波の上を飛ぶようなスリルを味わえること。日本で最初のスチュワードスを採用していること。船では最初の二等寝台の設備のあることなどである。



“ぐれいす”のゴールデンルームで中山パーサーにインタビューする春木氏（右2人目）

十二時を過ぎたので、寝台にもぐりこんだ。うとうとしていると起きた。船が土庄についたとのこと。時計を見ると、三時二十八分である。予定よりも二分早い。甲板に出ると雨が降っていた。海は萌黄色に濁っている。

二十メートルほどの栈橋を渡って休憩所に入った。腹がへったので、ラーメンを注文した。どうせ、大したことはないだろうと思って食べたが、意外に美味かったのは、空腹のせいばかりではなさそうだ。夜明けには、雨もあがった。

明るくなり始めると、港駅の前は、にわかに騒々しくなる。自動車やバスが動き始め、河口では焼玉エンジンの爆発する音が、水面にこだまする。土庄の港は、山と丘に囲まれた島内の玄関であり、中心地でもある。高松・宇野・岡山・姫路・阪神間に、定期航路を持っている。北方に屋形型の山が見えた。皇路山らしい。山肌は耕やされて、美しい段々畑をつくっている。昨夜来の雨で谷間から霧のように噴き出していた。

駅を出ると、左手の芝生に、平和の群像がある。壺井栄さんの小説「二十四の瞳」を銅像化したものだ。壺井さんとは、生前遂にお会いすることができなかった。ご主人の繁治氏（詩人）とは交際があったので、東京へ出るたびのように電話を受けたが、どうしてか、これまでいったことがない。たぶん、栄さんが有名な小説家であるため、敬遠したのではなからうか。昨年ぼくが海外旅行中、喪くなられた報せを受取った。惜しいことをしたと思っていた。銅像を見て、やはりお会いすべきだったと今は後悔している。銅像の前では、たくさん人の鳩が遊んでいた。

土庄は今では町になっている。小豆島は土庄・池田・内海の三町に分かれ、そのうち土庄町は洲崎・四海・北浦・大鐸・豊島・大部の六村を合体したものである。人口が二万五千人近くいるというのだから、驚かされる。



「ぐれいす」のスカイルームでチャームなスチュワーデスの野田信子さん(左)宮地チヨ子さん(右)

七時三十分、観光バスに乗った。座席はいっぱいである。やむなく、補助席に坐る。

永代橋を渡ると、木造の東洋紡の工場が見える。赤穂屋という場所を過ぎた。年間三千トンの塩を産するといふ。三五〇年前、播州赤穂から、製塩術を伝えられたとガイドの浜中幸子さんが説明した。沿道の家は壁に土よりも木を使っているのが多い。潮風を受けた関係からだろう。池田の町に近づく、オリーブの林が見え出した。緑に白い絵具をまぜたような葉の色である。六月の初旬には、白い花が咲きこぼれるという。この木の原産地は小アジアで、紀元前三千年ころから栽培されていた。古くから地中海沿岸に伝わり、世界輸出額の九五％を占めるようになった。日本には、文久年間(一八六一—四)に横須賀に植えられたのが最初である。小豆島では、明治四十一年から試作を始め、現在では経済作物として、集団栽培にまで発展している。年間百三十余トン



船内に植木がたくさんあるのに感心した。ぐれいす丸は、空の色と、緑と、純白の波の色だ。オリーブと、太陽と、緑の島が小豆島なら、ぐれいす丸は、小豆島の一部といったところだな。ア。
 <たかはし・もう>

を産し、七〇％を油に、三〇％が塩蔵されている。

池田の町は、素麺の特産地でもあるが、電照菊の産地でもある。愛知県の渥美、福岡県八女と並んで、三大産地といわれる。古くから、マーガレット、金仙花、露地菊などを栽培していたが、昭和二十六年から二十ヘクタールの集団栽培を始めた。

付近に札所が多い。三十七番明王寺は、正安三年(一三〇一)阿闍梨弘山の開基といわれている。国宝釈迦堂のあるところだ。堂中に、美しい彩色をほどこした厨子がある。両脇に虎と獅子の絵をかけたものだ。巨勢金岡の絵だそう。蛙股の彫刻は、左甚五郎作?といわれている。一級品というところが味噌である。

三十三番札所の長勝寺には、三体の国宝がある。本尊は阿弥陀で、右が地藏、左が薬師である。神仏混淆思想の現われであろう。本尊阿弥陀は僧形八幡といった姿である。一本を使って鋭い彫りを現わしている。鎌倉初期のものらしい。

海岸線に出ると、田の浦、苗羽が海の向うに見える。

田の浦には「二十四の瞳」の岬小学校がある。苗羽の里には、丸金やその他の醤油工場がある。醤油は、この島

を貧困から脱出するために考えた島民の知恵であった。室町時代以前この島では田畑に租税をかけられなかったほど貧しかった。島人は大豆や麦などを自由に運び、製品を大量に運搬できる船を持つ特権を生かし、醤油の製造を考えついた。播州の龍野と並んで関西醤油界の主産地となっている。文禄年間より生産され、現在の産額は、七万三千キロである。岩ヶ谷から、石切場が多くなってくる。カコウ岩を切り出しているのだ。大阪城、江戸城、神武陵、桃山陵、東京の日本橋などに使われている。福田は特に有名で、兵どもの夢のあとをしのげせる大阪城の大きな残石が、海岸ベリで波に洗われている。

余白がなくなつたので、途中を省いて、寒霞溪に飛ぼう。寒霞溪は内海町にある。バスを降りて、展望台を歩いた。成島柳北のいう峻嶒巍巖、相對峙する絶景が、眼前に出現する。安山岩や玄武岩の絶壁だ。松の木越しに山芋をぶつた切つたような岩、ボール紙を手でひきち切つたようなもの、泥をぶつた壁——その岩の上を、新緑がほどよく彩っている。左手には水をへだてて島が

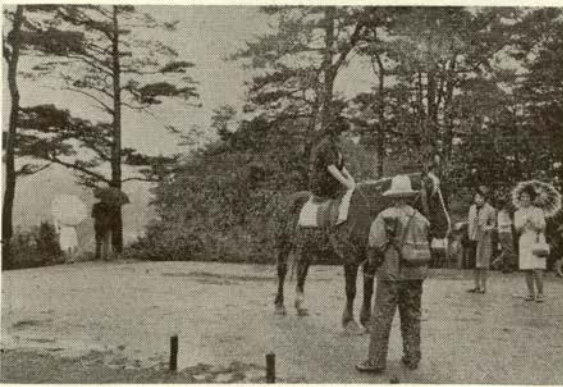
二つ見える。天島と弁天島か。霧が岩の間から噴き出し、見る見る視界を奪っていった。

寒霞溪の溪谷は、星ヶ城山（海拔八一七M）から西にのびる嶮岨山と、さらに南にのびる山岳に囲まれて南へ流れる。寒霞溪と名づけたのは、徳川時代の文人藤沢南岳であるが、もとは鍵懸山、神懸山と呼ばれた。応神天皇が二十二年に、この山で狩をした際、山路がけわしかったので、岩角に鉤をかけて登られたとの伝説に基づく。ロープウェーで登ると、奇岩、巨岩が次ぎ次ぎ目の前にせまり、その荒々しい造形美に驚かされるということだったが、バスの時間に制限があるので諦めた。

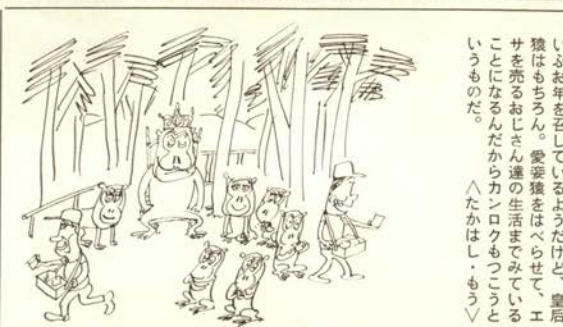
星ヶ城山には、佐々木信胤の城があったという。信胤は備前国の人で、建武の時は、細川定禅に従って大功をたてた北朝方の武将である。それが、京都で絶世の美女お妻の局と恋仲になった。お妻は別に恋人があり、高師秋といつて、高師直の一族である。二人の男の恋の鞘あてが始まり、信胤は遂に滅ぼされてしまう。多情な女の招いた悲劇だ。

銚子溪は自然動物園で、猿が放し飼いされていた。約

▲寒霞溪山頂の馬遊び



お猿の国の王様は大したものだな。だいぶお年を召しているようだけど、皇后猿はもちろん。愛幸猿をはべらせて、エサを売るおじさん達の生活までみていることになるんだからカンロクもつこうというものだ。
△たかはし・もう▽

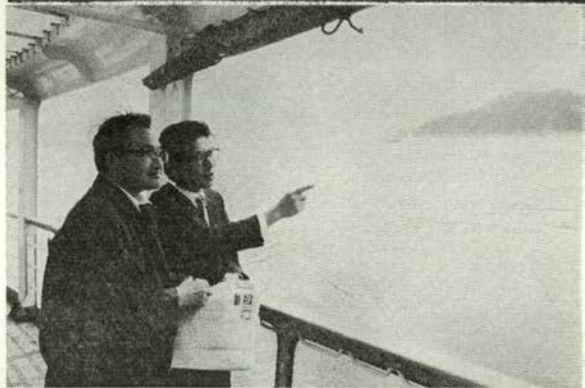


▲小南にけむるお猿の国の鳥獣戯画

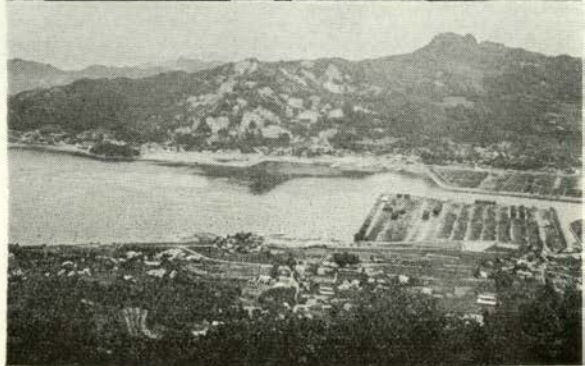




▶小豆島を囲む美しい島々



▶小豆島を後に(右)たかはし(左)春木氏



▶屋島からのぞむ壇の浦・五剣山

四百五十匹いるという。ボスは団十郎といった大猿で、政権争奪の凄い戦斗を示すかのように、顎がかみ切られて、垂れていた。山の斜面に松の木が一杯はえていたが、上の方を除き、枝がなく、裸同然だったのは、猿が無闇みとかけ登るからだろう。見物人の豆を袋ごと奪った猿が、キキーツ、ケレケレと鳴きながら、逃げてゆく。

その夜は、双子浦の旅館に一泊した。翌日、高松に渡った。鉄道の駅前に、加藤汽船がある。支店長の好意で自動車を廻してもらい、栗林公園と屋島を見物した。

栗林公園は市の南部、紫雪山の東麓にある日本式庭園で、日本三庭園の一つである。三百八十一年前、城主生駒親正の別荘として発足し、後に松平頼重が二九五年前に拡大改造し、住居としたものである。手入れが行きとどいているのに感心して、絵葉書を数種類買い込んだ。

屋島は、カウ岩の台地で、源平合戦の行われたところ。高松市の東北にある面積十平方キロの台を持つ、屋根形の山である。ケーブルで五分。松の多い坂を、○・八キロ登ると頂上につく。松林では、はやヒグラシが喧しく鳴いていた。展望台から見渡すと、義経弓流しの場

や五剣山が見えた。歩いて屋島寺をのぞく。本堂や中門は、鎌倉時代末のものだという。昭和三十四年に復元工事が行われたそうだ。境内にある屋島寺書院の奥庭は、全面白色の土層が露出していて、まるで雪が降ったようであった。凝灰岩の露頭である。

屋島から自動車で、再び加藤汽船に帰った。港では、はびねす丸が待っていた。ぐれいす丸よりは小型の八〇〇トンである。特等室に案内された。二人用の個室で、テレビもあれば、応接セット、洗面所、ベッドつきである。同行のたかはし・もうさんは、しきりとテレビの画面に見入る。わたしとしては、折角旅に出たのだから、テレビ、ラジオから遠ざかりたいのだが、彼は時事漫画をかくために、刻々のニュースを知りたがっている。仕方がないので諦めて、ガラス張りのロビーに出た。すでに淡路島が、その大きな島影を右手に見せている。秀麗な山は、淡路富士といわれる先山であるうか。船は氷屑のような波を立てて、青い海を神戸に向けて進んでゆく。

△カメラ／奈良勝彦▽



2



504

ボタンひとつで開きます

岡 42
田

淳

本格派の人々に
愛される神戸の靴です

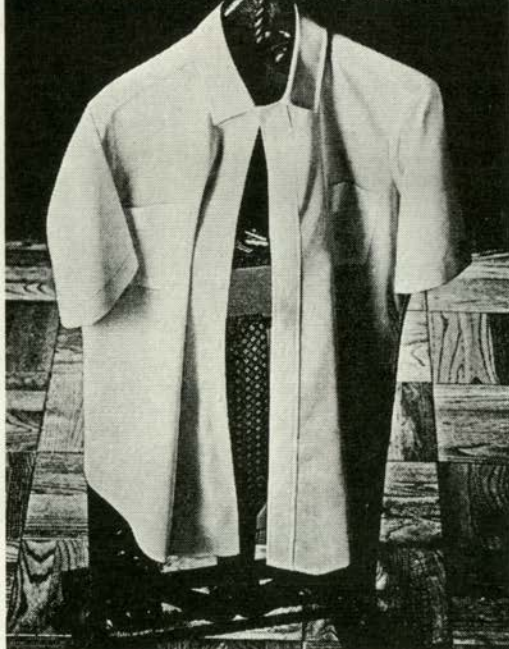


★靴のオーダーメイド

ヨシオカ

神戸大丸前・33-5190-9763
渋谷(462)3436(直)
東京・東急百貨店・日本橋(211)0511(代)

Cool Shirt



紳士シャツ専門店

大和屋シャツ

三宮センター街 TEL 33-6956